

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

研究推進検討部会（第1回）議事次第

日時：平成30年6月6日（水）

13:15～14:45

場所：グランディエールブケトーカイ
4階ワルツ

- 開会
- 議題
 - 1 県が委託するリサーチサポートセンターにおける研究課題について
 - 2 その他
- 閉会

資料

議事次第

- 資料1 健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会研究推進検討部会委員名簿
- 資料2 リサーチサポートセンターからの研究提案書

健康寿命延伸のための「社会健康医学」推進委員会

研究推進検討部会委員名簿

(敬称略、50音順)

氏名	所属・役職等	備考
なかやま たけお 中山 健夫	京都大学大学院医学研究科副研究科長 社会健康医学系専攻長・健康情報学分野教授	部会長
さこ よしやす 佐古 伊康	しずおか健康長寿財団理事長	
たなか いっせい 田中 一成	静岡県立病院機構理事長	
まつだ ふみひこ 松田 文彦	京都大学大学院医学研究科 附属ゲノム医学センター センター長・教授	
みやた ひろあき 宮田 裕章	慶應義塾大学医学部医療政策・管理学教室教授 東京大学大学院医学系研究科医療品質評価学講座特任教授 国立国際医療研究センター グローバルヘルス政策研究センター 国際保健システム・イノベーション研究科研究科長	
みやち よしき 宮地 良樹	静岡県立総合病院参与兼リサーチ・センター長 (京都大学名誉教授)	
やまもと せいじ 山本 清二	浜松医科大学理事 (教育・産学連携担当)・副学長	
やまもと としひろ 山本 敏博	静岡県社会福祉法人経営者協議会会長	

計 8 名

社会健康医学研究センターについて（案）

（静岡県立総合病院）

1. 概要

- ・ 社会健康医学研究の研究者は、リサーチサポートセンターの常勤、もしくは非常勤の研究者として研究を行う
- ・ ビッグデータ研究に関しては、宮田慶応大学教授と連携し、当院医師に研究員を加えて進める
- ・ ゲノムコホート研究に関しては、松田京都大学教授と連携し、当院医師に研究員を加えて進める
- ・ 疫学研究に関しては、中山京都大学教授と連携し、当院医師に研究員を加えて進める
- ・ 研究センター総括は、宮地先生が行う
- ・ 研究方針の調整、人の採用等、センターの運営に必要なことについては、田中先生、宮地先生が行い、本庶先生に諮る

2. 研究体制

総括	研究分類 (主任指導者)	研究者名	研究テーマ	研究内容	備考
宮地良樹	ビッグデータ (宮田 裕章)	森 潔 山本 浩之 中谷 英仁	国保連の医療ビッグデータを活用した、生活習慣改善に関するエビデンス構築とその成果を用いた健診時介入の実施	健診データを用いて、生活習慣と疾患発症リスクの関係を数字で見える化し、健診時にその個人のリスクに基づいた指導介入を行う。次年度に改善がみられるかどうかを調査し、介入の有効性を検証する。 【研究期間】4年	
		小谷 仁人 一原 直昭 中谷 英仁	医療ビッグデータにおける時間を考慮した要介護特性要因の探索とその結果による保健指導や受診勧奨	介護保険の非利用者と利用者をグループ化し、特定健診の検査結果やアンケートの分布の違いを探索することで、要介護者となる因子を同定する。 【研究期間】2年	他に1名加わることも検討
		宮田 裕章 山本 浩之 平原 憲道 一原 直昭	国保データを活用した健康長寿に関するアプリの開発研究	国保連合会のデータを活用した、医師や保健師が現場で活用できる健康長寿に関する市民向けアプリの開発および次世代型医療ビッグデータ基盤への展開 【研究期間】2年	研究内容によっては、研究分担任あり
			国保データを活用したCOPD患者の特徴および疾病・経済的負担の調査研究	医療ビッグデータを活用し、COPD(慢性閉塞性肺疾患)の患者や治療の特徴及び財政負担の詳細を明らかにし、エビデンスに基づく県の医療政策に寄与する。 【研究期間】2年	
		中谷 英仁 一原 直昭 山本 浩之	医療ビッグデータ解析における環境整備	医療ビッグデータを基に、臨床経過を示すグラフ表現モデルを適応し、妥当性を検証する。さらに提案モデルを利用し、医療従事者および患者に与えるインパクトについても考察する。 【研究期間】5年	
川上 浩司	学童検診のデータベース化と個人フィードバックシステム(仮)	調整中			

総括	研究分類 (主任指導者)	研究者名	研究テーマ	研究内容	備考
宮地 良樹	ゲノムコホート (松田 文彦)	寺尾 知可史	静岡県におけるゲノム研究基盤構築に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡におけるDNA管理体制の決定 ・試料とデータの扱いに習熟した人材の育成 ・県立総合病院の外来患者を対象としたDNA採血を実施し、匿名化して検体を管理 ・全ゲノムシーケンスデータを扱える人材の育成 ・長期にわたって活用できる健常人データの構築に貢献 【研究期間 5 年】	
		研究者A(未定)		調整中	
		研究者B(未定)			
	疫学 (中山 健夫)	高木 明 ターシュ タービトウ 木谷 芳晴	脳の発達と聴覚に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> ① データ管理 ・県下の難聴児のデータベース作成 他 ② 教育研修の場の提供 ・教師(聾学校、通常校)、保健師、言語聴覚士、医師の研修・育成 ③ コンピュータ制御された音響刺激システムの活用 ・種々の音響刺激と脳活動の定量的可視化(NIRS使用) ④ NIRS, BESA(EEG)による ・出生後の言語野発達の脳科学探索 他 ⑤ 高齢者の聴覚障害について ・認知症に対する聴覚刺激の効果 他 【研究期間】5 年	
		吉村 耕治 室 悠介 今村 正明 中谷 英仁	メタボローム解析を主とした疫学的研究	地域住民、健診受診者または病院受診患者を対象とし、血液・尿のサンプルや、客観的な排尿に関するデータを収集する。約1年かけてベースラインデータを作成する。データを活用し、夜間頻尿を主とした各下部尿路症状についての研究を行う。また、3年後に頻尿についての縦断的な危険因子の研究を行う。 【研究期間】6 年	
		島田 俊夫 田村 尚久 清水 史郎 中谷 英仁	緑茶パウダー摂取による血圧・血管機能・代謝への影響に関する研究	お茶服用前、服用後の経時的データを収集する。緑茶パウダーの生活習慣病改善効果、高血圧治療効果、心機能改善効果等について研究を行う。 【研究期間】 短期:2018/09/01-2019/08/31 中期:2018/09/01-2021/08/31 長期:2018/09/01-2023/08/31	
		中山 健夫 研究者C(未定)	地域包括ケアと関連させた認知症・介護対策(仮)	調整中	